

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771700899		
法人名	医療法人社団 愛有会		
事業所名	グループホーム オリーブ苑		
所在地	香川県三豊市詫間町詫間679番地40		
自己評価作成日	平成24年7月24日	評価結果市町受理日	平成22年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JirjyosyoCd=3771700899-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成24年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎月の朗読ボランティア、コーラスボランティアで地域の皆さんとの触れ合いを大切にしている。年2回の文化祭には、利用者、職員が協力して作品作りを行い、出展して見学に行き、地域の方と交流を深めている。家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの特徴を把握し創意工夫している。できるだけ長く苑生活が送れるよう、残存機能を活かした取り組みを行っている。三度の食事職員が心を込めて手作りしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>利用者の思いと人格を尊重して、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、利用者の有する能力を大切に食事・排泄・入浴等の日常生活を支援している。9年目を迎えたホームは、花と緑の玄關、明るくゆとりある生活空間で明るい声と会話、歌声等がいつも聞こえている。また、利用者の半数が90歳代で高齢化・重度化が進んでいるが、利用者の生活ペースで穏やかに暮らせるよう工夫しており、設置母体である病院のバックアップは、利用者や家族の信頼と安心を深めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	苑内と事務所の良く見える所に理念を掲示している。朝礼で理念を唱和し、職員全員に意識づけを行い、実践に繋げるようにしている。	理念の「愛情、やさしさ、尊重」を毎朝唱和し、実践のための具体的なサブタイトルを掲示して共有・実践につなげている。さらに毎年の目標、毎月の一人ひとりのケア目標が、理念の実践に繋がるよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の朗読ボランティア、コーラスボランティアを通じて、定期的に地域の皆さんと交流している。年2回地域の文化祭に作品を出展し、見学に行っている。福祉祭り、夏祭り、ゴミ拾いにも参加している。	地域の文化祭・福祉祭等への作品の出展、夏祭りの参加や施設の行事(クリスマス会、運動会等)を地域に開放する他、地域のゴミ拾いや散歩での挨拶等を積み重ねることで、地域との繋がりを広げている。	ホームの西隣接の団地に家が建ち始めており、新しい隣人へのホームの理解と相互協力関係を築き、地域活動や人々との関わりを広げる積極的な取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生(大学生)や地域の中学生の体験学習の受け入れを行っている。入居申込時には、家族の方の苦労や心配事の相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告や情報交換を行い、メンバーの方から質問や意見をもらって、サービスに活かしている。メンバーの方を通じて、地域の皆さんにPRしてもらえるように努めている。	前自治会長、地区組織の会長、民生委員、市職員、利用者、利用者の家族、オリーブの郷施設長等が参加して協議し、理解と支援を受けている。	運営推進会議で、さらに具体的なホームの課題(運営やサービスの向上・地域への広報・地域との相互協力関係を築く等)に対する理解と支援を得て、サービス向上に活かす取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の更新の機会に利用者の暮らしぶりや実態を伝え、情報を共有できるように努めている。	運営推進会議や各報告・介護認定の更新時等に、機会を捉えてホームの取組みを伝え、連絡と情報を得よう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけない時間を増やすよう努力している。徘徊時には職員と一緒に歩くようにしている。	身体拘束については、職員が正しく理解できており、昼間は施錠せずに見守りで対応できている。安全委員会の記録や利用者が安全に暮らせる工夫等で、家族の理解を得よう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや申し送り時に、言葉の暴力や心理的虐待について話し合い、防止に努めている。利用者の表情や身体を観察することで、虐待がないか見過ごさないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている利用者の方がいる。必要な場合は相談に応じ、関係機関への橋渡しをしていきたい。職員も学ぶ機会を持つようにしたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を取り、丁寧に説明している。利用料金や起こりうるリスク、重度化についての対応方針を説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑独自のアンケート調査で意見や要望を引き出せるようにしている。家族の面会時には気軽に話せる雰囲気作りを行い、意見や要望には速やかに対応するようにしている。	家族の面会時に意見や要望を聞き、さらに、毎年2回(6月、12月)のホーム独自の家族アンケート等は、家族から信頼と安心感を得ている。頂いた意見や要望は職員に周知し、サービス向上に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、定期的にミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、日頃から職員に問いかけたり、話を聞くよう努力している。	管理者と職員のコミュニケーションは良く、機会を捉えた話し合いや定例ミーティングで、意見やアイデアを出している。管理者は定例の管理者会で報告し、意見が反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意志を重視し、活かせるように努めている。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、人間関係を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりの力量を把握している。法人内外の研修に参加することを勧めている。職員が外部研修などに交替で受講できるようにして、研修後は全職員が閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの総会や研修等の、他の事業者の方と交流を持つ機会に、お互いの取り組み状況を話し合い、良いと思うことはケアに取り入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を良く聞き、できることは本人の納得のいくように努め、徐々に信頼関係が深まるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に思いや要望を聞いたり、暮らしの情報参考に、できるだけ希望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや状況を確認し、職員全員で話し合い、相談を繰り返しながら必要なサービスに繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えをもとに、しきたりや行事等を教えていただいたり、一緒に野菜作りや収穫を行い、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告を行い、本人の意志や気づきの情報、状態を伝え、今後の対応について話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や近所の方の面会があれば次回に繋げるよう依頼したり、彼岸やお盆にはお墓参りや仏さん参りに行けるようお願いしている。	家族や親類、近所の方等の面会を大切にせずして途切れないように支援し、隣のオリーブの郷への訪問や、地域の行事参加等で馴染みの人や場所との繋がりを継続できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係を把握し、必要に応じて席替えをして、トラブルを回避するようにしている。心身の状態や、その時の気分や感情を理解し、一人ひとりの対応に努めている。できるだけ一緒に作業やレクリエーションができるように考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療が必要になった場合、関係者に本人の状態、好み、ケア等の情報提供を行っている。お見舞いに行き、家族の相談に乗り、安心していただけるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日声かけを行い、言葉や表情から本人の意志を汲み取るように努力している。本人の気持ちを大事にしている。	利用者一人ひとりの思いを聞くよう工夫しており、行きたいところ・食べたいもの・暮らし方等の思いに添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から情報を得て、生活シートや暮らしの情報を使い、生活歴を職員全員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや職員からの情報提供で、現在の状況を把握するように努めている。申し送りノートやミーティングで情報の共有ができるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃接している中で、本人の意向やご家族の意見を反映させるようにしている。職員全員で意見交換し、モニタリング、介護計画の作成を行っている。	利用者・家族・職員から十分に情報が得られるよう、話し合う機会を日常の支援の中で持ち、意見やアイデアを反映した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や本人の言葉を個別記録に記載している。朝の申し送りや申し送りノートで職員が共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に応じて、必要なサービスを臨機応変に提供するようにしている。その時々にもニーズに合わせて、必要に応じ、勤務変更することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、訪問理容サービスや移動バンの販売を利用している。市のタクシー券を利用し、外出の計画を立てることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の往診があり、診察後内服薬を処方してもらっている。痛みの訴えや状態変化があれば早急に受診するようにしている。他科受診についてはご家族に依頼しているが、必要に応じて職員が同行している。	2週間ごとの嘱託医の往診、希望時の歯科医の往診等に対応ができており、他科受診については、家族が対応できないときは職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時には母体の病院と連携をとり、相談や指示を仰ぐことができ、必要に応じて看護師が訪問してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、職員がお見舞いに行くようにしている。退院時には医師や看護師、家族とカンファレンスを行い、速やかに退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、事業所が対応できるまで、職員全員で支援に取り組んでいる。必要に応じて主治医と話し合う場を設け、今後の方針を決めている。	入居時に、事業所のできることに家族の希望を話し合い、理解を得て契約ができている。重度化したときは、状況に合わせて家族と主治医の話し合いを重ね、理解を得よう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にミーティングを行い、緊急時の対応方法について、勉強会や話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関係機関の指導を受け、年2回防災訓練を行っている。ミーティングで消火器の使い方や避難経路の確認を行っている。災害時に備えて、非常用飲料や食料を準備している。	年2回の防火訓練は、オリーブの郷との合同避難訓練で、役割や避難方法の確認ができています。また、運営推進会議で「災害時の対応について」発表し理解を得ています。	夜間を想定した避難訓練の実施、新しい団地の住民への支援依頼や、地域との協力体制の構築が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に発する言葉かけについて、日常的に確認し、事業所全体で具体的に話しあっている。代表者からも個人情報の保護や言葉遣いについて、配慮するように指示がある。	今年のホームの目標である「思いやりのある言葉かけ」の実践に努めており、食後の歯磨きを各自の部屋でする等、一人ひとりを尊重した支援を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを無理に押しつけることはせず、一人ひとりが自分で決める場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、体調や気分に合わせて、できるだけ個別性のある支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に馴染みの理容師が来苑している。入居前に行かれていた理容院に家族と一緒に出かけの方もいる。離床時には整容の乱れを整えるようにしている。お化粧品をしたりスカートをはかれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に収穫した野菜を皆さんに見てもらったり、簡単な手作業を手伝ってもらっている。調理の音や臭いで五感を刺激して、食事への関心を引き出すようにしている。好き嫌いの把握をして代替のメニューを提供している。	栄養士の献立を基本にし、収穫した季節の野菜や好みのメニューを取り入れたり、催しのある日は寿司等を一緒に作ったり、片付けは各自のエプロン姿で共に会話しながら、笑顔で参加できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、全粥・キザミ食、ペースト食など、一人ひとりに合わせた食事作りをしている。食事チェック表、排泄チェック表や申し送り等で栄養状態を把握し、足りない時は栄養補給ゼリーやスポーツドリンク等で補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは緑茶でうがいを行っている。一人ひとりの力に合わせて見守り、声かけ、誘導等の介助をしている。スポンジを使い口腔ケアをしている人もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や申し送り等で一人ひとりの排泄パターンを把握している。個々に合わせて、見守り、声かけ、誘導、介助を行っている。パッド類も職員で話し合い、必要に応じて見直しをしている。	毎日の排泄記録から排泄パターンを把握して、声かけや誘導等で、自尊心に配慮した支援に努めている。特に夜間は、利用者の個別性に配慮した支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で便秘の把握を行っている。主治医と相談し、便秘薬や漢方薬を服用している。毎日ラジオ体操やリハビリ体操、水分補給を行っている。便秘の方には、ヨーグルトやさつまいもなどを多く摂っていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員数や利用者の体調により、一人ひとりの希望に沿うのは難しいが、できるだけ希望に沿えるようにしている。入浴を拒む人には無理強いをせず、職員が交替で言葉かけするなど工夫している。	一人ひとりの習慣や意向に沿うよう努めている。入浴を拒む人には、チームプレイ等で工夫した支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて日中の活動を促している。ラジオ体操、リハビリ体操は毎日行っている。個々に畳コーナーで体操をしたり、苑内を歩行訓練している。夜間眠れない方には飲み物を提供し職員が側で話しかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の説明書や処方箋をカルテの中に入れ、職員全員が内容を把握できるようにしている。ミーティングの時に服薬の説明を行い、理解を深めている。服薬時は手渡し、きちんと服用しているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の経験や知恵を発揮する場面を常に考えている。個々に応じた役割を探し、楽しい時間が持てるように努力している。地域の行事に参加して、楽しんでもらえるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て、毎週外出されたり、毎月息子さんと外泊され、地域のホテルで食事を楽しまれている方がいる。気候の良い時には、花見や海へ散歩に出かけるようにしている。地域の文化祭や福祉祭りにも出かけている。	一人ひとりの希望や体調にそった支援に努めている。また、家族の協力を得て、定期的な外出や外泊、地域行事への参加等の支援ができています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、事業所が管理している。中には自分で所持している方もいる。買い物や移動パン屋が来た時は、自分で払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の申し出があれば自室で電話できるようにしている。家族からの贈り物があれば、お礼の電話をかけることもある。年賀状や暑中見舞を出すための支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は明るく日射しが十分に注ぐ。夏はロールカーテンで光を遮ることができる。風鈴や季節の花々を飾り、季節感を演出している。苑内は季節に合わせて飾りつけをしている。	共用空間は、ウッドデッキにすぐ出られ、明るく開放感にあふれている。掃除が行き届いた清潔な玄関、廊下、食堂、畳の居間等には、利用者の共同作品や季節の花、愛用マスコット等がセンス良く置かれ、穏やかに過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーには掘りごたつを設置している。貼り絵をしたり、その側で横になったり、足を投げ出してくつろいでいる。		

グループホームオリーブ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の作った作品や家族の写真などをベッドサイドに飾っている。思い出の品物や馴染みの物を置いている。	居室にはベッドが備えられ、馴染みの寝具や家具(筆筒、写真、人形等)を持ち込み、利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーになっており、床はクッションフロアで転倒の衝撃を吸収するようになっている。ホール、廊下、浴室、トイレには手すりを設置している。トイレには張り紙や目印を付けてよく分かるようにしている。		